

平成 30 年度第 1 回水戸市立博物館協議会

日時 平成 30 年 7 月 20 日 (金)

午前 10 時 30 分から

場所 水戸市立中央図書館・博物館

3 階視聴覚室

1 開 会

2 任命書交付

3 教育長あいさつ

4 正副委員長の選出

5 正副委員長あいさつ

6 新任委員挨拶

7 博物館職員紹介

8 議 題

(1) 報告事項

・企画展「茨城鉄道Ⅱ」—今も思い出の中を走ってる—の結果報告について

(2) 協議事項

・夏休み子どもミュージアム「妖怪さまのお通りだい！Ⅱ」の開催について

・明治維新 150 年プレ特別展「みと歴史探訪」の開催について

(3) その他

9 閉 会

※ 閉会後に、夏休み子どもミュージアム「妖怪さまのお通りだい！Ⅱ」の展示内覧会を行います。

水戸市立博物館協議会委員名簿

(任期:平成30年7月15日～平成32年7月14日)

氏名	役職等
長谷川 聡	市学校長会代表 鯉淵小学校校長
河原 将子	市文化振興協議会委員
和田 祐之介	市商工会議所名誉会頭
岡田 貴子	県生涯学習・社会教育研究会評議員
桐原 幸一	茨城生物の会事務局長
小坏 のり子	県弘道館事務所学芸員・主任研究員
小菅 次男	茨城生物の会会長
笹目 礼子	県立歴史館副参事兼歴史資料課長
鈴木 暎一	茨城大学名誉教授
玉川 里子	学識経験者
塚原 正彦	筑波学院大学経営情報学部教授
藤 和 博	県立石岡第一高等学校定時制課程教頭
藤本 陽子	学識経験者
吉川 明宏	学識経験者
小泉 康二	市議会代表

(平成30年7月6日現在, 順不同・敬称略)

いばらきてつどう
リニューアルオープン企画展 **茨城鉄道 II**

— 今も思い出の中を走ってる —

結果報告

1.概要

かつて、水戸市の赤塚と城里町の御前山には茨城鉄道が走っていました。初夏の新緑や秋の紅葉時期には、多くの観光客が茨城鉄道を利用して、御前山に出かけました。観光客だけではなく、沿線の通勤客や通学客にも大いに利用されました。ゴトゴトと走った汽車や列車を懐かしく思い出す人も多いと思います。しかし自動車の普及によって、茨城鉄道も利用客が減少し、昭和46年にその歴史を閉じました。

今回の展覧会は「茨城鉄道」展の総集編として鉄道関係資料や模型などを取り入れ、われわれの心に、たくさんの思い出を残して廃線となった茨城鉄道の歴史をさまざまな角度からたどります。

2.会場及び開催期間、休館日

水戸市立博物館 4F 展示室
(水戸市大町 3-3-20 TEL 029-226-6521)
平成30年4月1日(日)～5月27日(日)
休館日 月曜日、
ただし4/29、5/3、5/4、5/5、5/6は開館
開館時間 9:30～16:45

3.入館者数 6,564 人

(内訳)

・一般	4,560	人
・小・中学生	441	人
・高校生	27	人
・幼児	150	人
・65歳以上	1,369	人
・障害者	17	人

4.パンフレット及び関係図録の販売数

・茨城鉄道(500円)	1,531	冊
・激動の昭和鉄道史(1000円)	99	冊
・ハドソン慕進(1500円)	47	冊

5. 関連行事

・「茨鉄線の廃線跡をたどるバスツアー」

平成 30 年 5 月 16 日(水) 8:30~15:00

赤塚駅~御前山駅

料金 1500 円(保険・昼食代含)

定員 20 人 (4/25 よりに電話で申し込み、定員になり次第締め切り)

講師 中三川 武夫氏 (郷土史家)

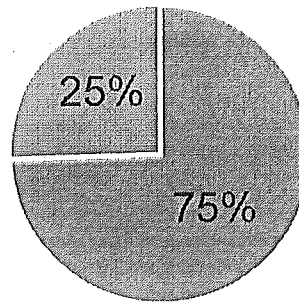
玉川 里子氏 (前水戸市立博物館館長)

参加人数 21 名

6. アンケート結果 : 回答総数 454 枚 (入場者の 7%)

① 男女比

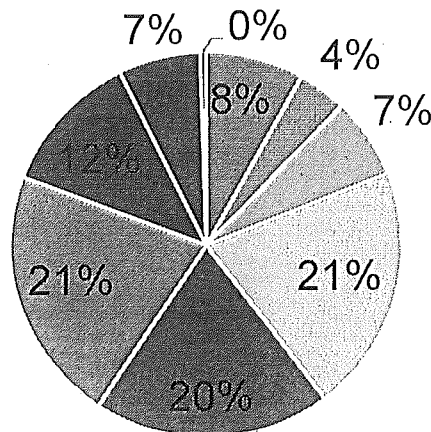
男 313 女 107



■ 男 ■ 女

② 年齢構成

10代 36
20代 18
30代 30
40代 92
50代 87
60代 95
70代 53
80代 30
90代 2



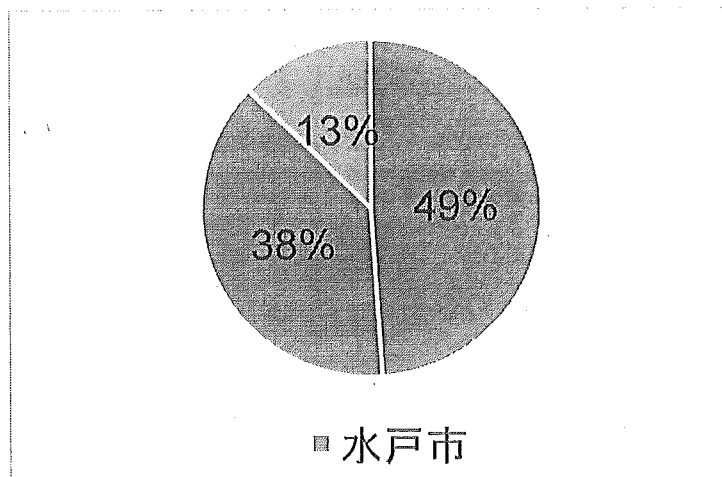
■ 10代 ■ 20代 ■ 30代
■ 40代 ■ 50代 ■ 60代
■ 70代 ■ 80代 ■ 90代

③ 居住別

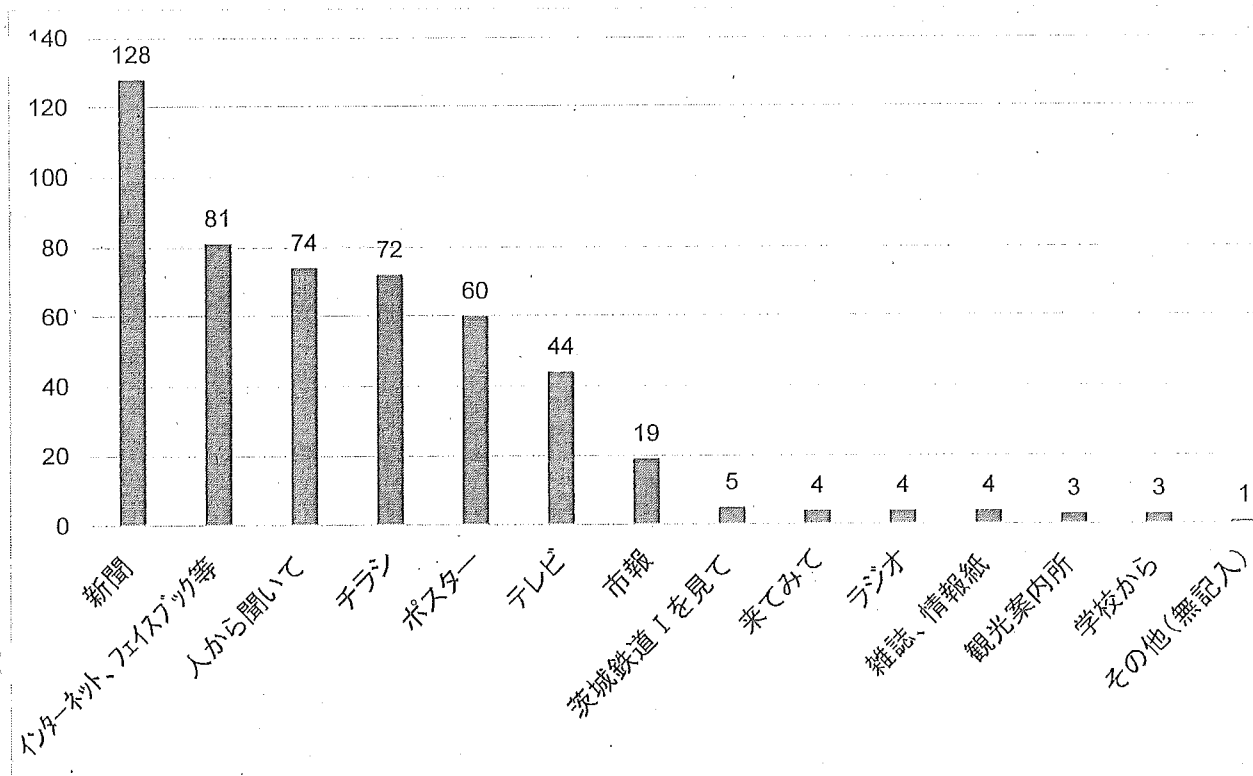
水戸市 209

県内 164 (30市町村)

県外 54 (12県)

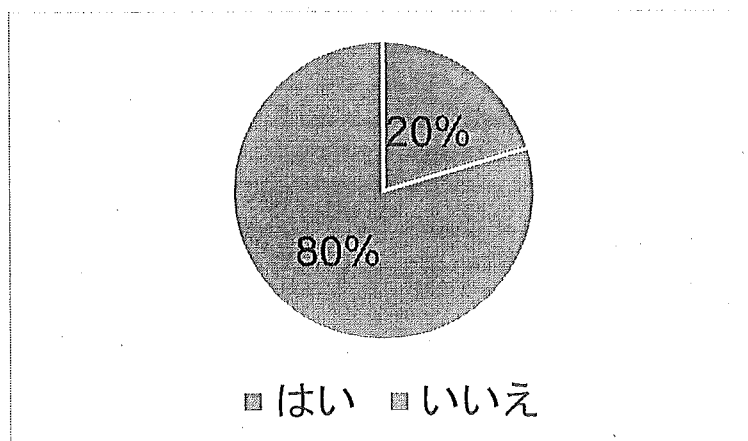


質問1 展覧会を何によって知りましたか



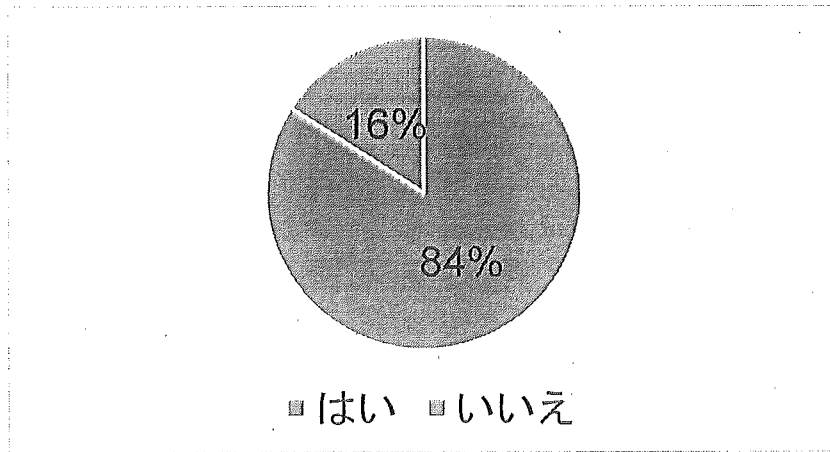
質問2 昨年の茨城鉄道Iを見学しましたか

はい 92
いいえ 360



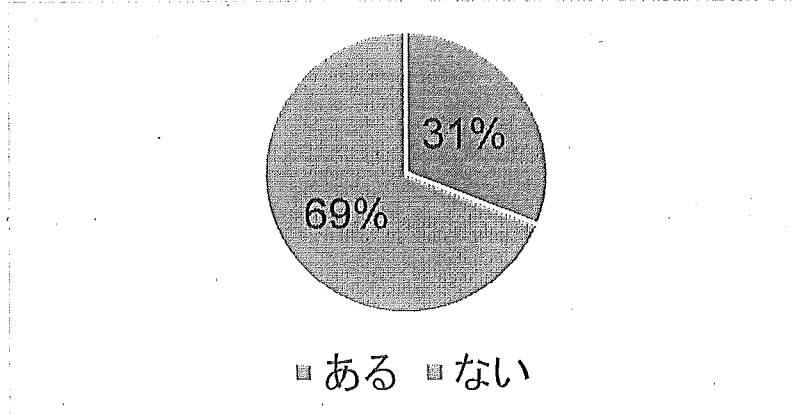
質問3 かつて茨城鉄道線が走っていたことを知っていましたか

はい 381
いいえ 72



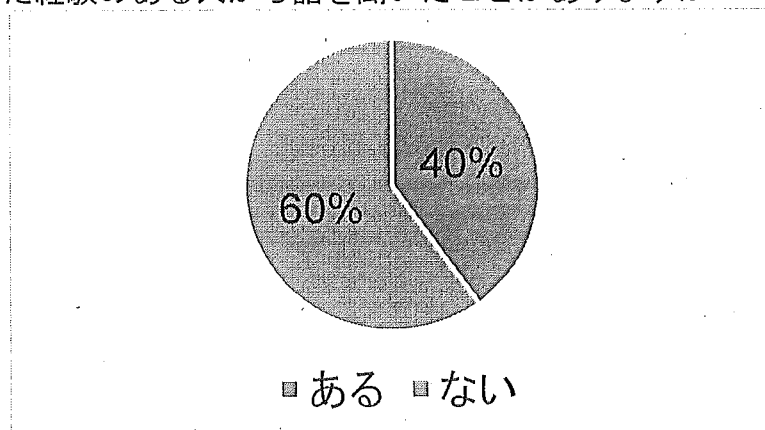
質問4 茨城鉄道線に実際乗ったことがありますか

ある 140
ない 312



質問5 茨城鉄道線に乗った経験のある人から話を聞いたことがありますか

ある 158
ない 237



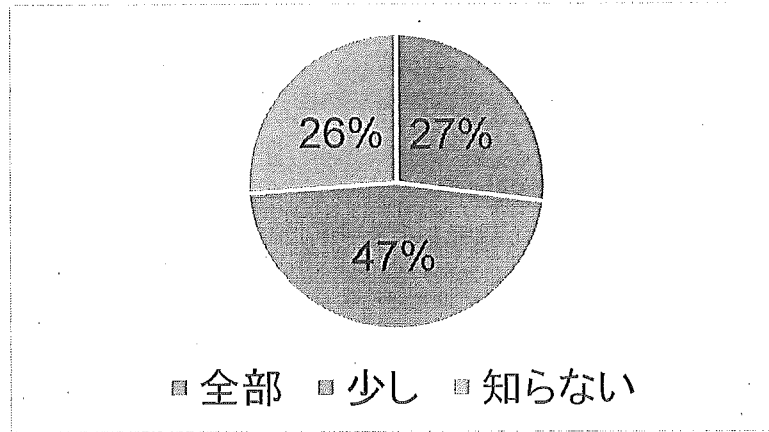
(あると答えた人の具体例)

乗った経験のある人、沿線に住んでいた家族や親戚などから、通勤・通学、遠足、駅のことなどの話を聞いたことがある、走っているのを見たことがある、家族が運転士などをしていた、田野の事故などについてきいたことがあるなどの記述が多かった。

- ・茨大の学生が一気に校門に押し寄せてきた
- ・祖母が戦争中に那珂西まで乗車し、十万原に芋を植えたと聞いた
- ・ガタゴトよく揺れる、乗り心地が良くない
- ・蒸気機関車が走っていたころ、火事が起きた
- ・田野一飯富間の坂で乗客がおろされた

質問6 城鉄道線の路線跡を知っていますか

全線知っている 121
 少し知っている 210
 全く知らない 117



(路線跡を少し知っている人の具体例)

自宅に近いところは知っているという回答や、赤塚・上水戸・大学前・石塚などのキーステーション周辺、123号沿い、阿波山から御前山あたりを知っているという回答が多かった。

質問7 展覧会の感想

写真や映像を見て、懐かしかったという感想が大変多かった。

茨鉄線について、知らなかったが、今回の展示で歴史や路線などがとてもよく分かったという感想も多く、茨鉄線を知っている世代も、知らない世代も、また地方鉄道ファンにも概ね好評だった。

- ・写真を見て、今の道路が鉄道の線路だったことを思い、不思議な感覚です。今でも残っていたら便利だろうと思う。
- ・映像や実物の資料、模型など工夫があって素晴らしいと思いました。
- ・貴重な写真が多く、懐かしかった。実際に使っていた物が展示されていてすごいと思った。
- ・駅や車輦について、詳しく見応えがあった。
- ・よく知らなかったけれど、懐かしい。
- ・今と昔の写真が並べられていて、面白かった。
- ・大変懐かしく、当時のことを色々思い出しました。
- ・貴重な映像や資料が見られて良かった。茨鉄線の当時の映像に驚きました。
- ・赤塚から大学前まで通学に利用していた。当時のことが思い出された。
- ・茨城鉄道線のことは全く知らなかったので勉強になった。茨鉄線の歴史を知れて、とても楽しかった。
- ・茨鉄線の記録をこれからも伝えてください。
- ・古き良き鉄道の歴史を、視覚を通して知ることができたのはとても良かった。日々利用している鉄道も時代とともに消え、人々の記憶も薄れていく中で、このような展覧会は「鉄道の歴史」を語り継ぐ上でとても良い機会だと思った。
- ・123号線や松が丘交差点あたりに鉄道が走っていたとは…。

- ・とてもわかりやすく、具体的な展示で、映像もあって、とても良かったです。
- ・廃止から長い日々となり、若い人は知らない人も増えているので、定期的に企画していただくと良いと思う。
- ・上水戸ー茨大間の乗り入れ関係が初めてわかりました。
- ・幼少期に廃止された駅で遊んだことを思い出した。走っている映像は、初めてで感動した。
- ・現役時代の茨鉄線は知らなかったのので、詳しく見ることができて感激です。来て良かったと思いました。
- ・地域に根ざした興味深い企画で楽しめた。
- ・湊線や水浜線は知っていたが、茨鉄線は知らなかった。写真を見て、現在との様相の違いがよく分かった。
- ・子どものころ乗った記憶は忘れられませんが、鉄道の有る無しは、時代を映す鏡です。
- ・学生時代、友人が茨鉄線を利用していた。いつか乗ってみたいと思っていたが、卒業の次の年に廃線となってしまう、乗り損ねた思い出がある。残念だった。
- ・25年前に開催された水浜、茨鉄、水戸電気鉄道の展覧会も、当時高校生でしたが見に来ました。また、県内の、廃線となった鉄道路線を集めた展覧会をやってほしいです。
- ・水浜線や、水戸電気鉄道の展示もやってほしい。
- ・当時どのあたりを走っていたかがよく分かり興味深かった。どこかで常設展示してほしい。
- ・ノスタルジックで良かった。少しの間悩みを忘れられた。
- ・DVDを売ってほしい。
- ・前から気になっていた茨城鉄道。じっくり知ることができて感激です。
- ・歴史を感じ、実施に乗車してみたい気持ちになった。
- ・「電車道」なる言葉が残っており、今回の展示を見てなるほどと理解した。
- ・路線跡を歩いてみたくなった。
- ・路線が載っている古い地図なども展示してあると良かった。
- ・「駅今昔」がわかりやすかった。また、いろいろな資料を、皆さんが大切にされていたことに驚きました。
- ・写真に知っている駅員さんの顔もあり、より懐かしく感じた。
- ・今回の展示物を全部載せた図録を発行してほしい。
- ・自分が生まれる前の風景に、心が躍った。
- ・今では貴重な当時の切符や時刻表に興味を持った。
- ・その時その時の「今」をしっかり記録しておくことの大切さを、再認識させられた。
- ・映像の音声、風景や車内の色彩は臨場感を高め、当時の世界に誘ってくれた。
- ・写真は見たことがないものが多く、満足した。
- ・想像していたより見応えがあり、30分のつもりが2時間も見てしまった。
- ・鉄道雑誌で、赤塚から城里へ鉄道があったことを知ってから、ずっと詳細を知りたいと思っていたので、今回の展示は待ちに待ったものでした。当時の様子や今の跡地の詳細など素晴らしい内容です。また新たな映像や資料が発見されたら、パートⅢ、Ⅳと続けてほしいです。
- ・「思い出話」集に感激しました。
- ・那珂川の対岸からも利用者がいたという話からは当時の様子が分かる。社会の変化を感じた。
- ・公共交通を見直す機会になれば良いと思う。
- ・展示資料数が多く面白かった。
- ・初めて知ったことが多くあった。
- ・鉄道が生活と密接につながっていた時代のことが分かり、感銘を受けた。
- ・当時の様子が詳しくわかりやすくまとなっていて、世代が違って、まるで当時にいるような感じがした。
- ・上水戸のミツウロコへの引込み線や、藤井駅からの砂利採取線等について説明があると良かった。
- ・街中の交通機関を見直し、かつてのように路面電車やトラムが走る水戸になってくれたらと思う。

- ・パンフレットはとても良かった。ただ、他館の同様な企画で充実した印刷物があるので、負けないでほしい。
- ・かつての駅が、現在のどの位置なのかとても詳しく展示されていて本当に嬉しく思いました。中三川さんの詳細な調査に驚いた。
- ・3回見に来たが、3回見ても飽きない展示でした。
- ・これだけの映像、資料が存在するなど考えてもいませんでした。
- ・資料の量も適当で、関心をもって見ることができた。遠方からわざわざ来て良かった。
- ・茨城鉄道の貨物輸送について、もっと詳しく知りたかった。
- ・昔は水戸に駅がいっぱいあったことを初めて知りました。
- ・なぜ廃線になったのか、乗降客の推移、売り上げの推移など、詳しく言及してほしい。

「妖怪さまのお通いだい! II」

— 妖怪さまは今年も絶好調 !! —

1. 開催要綱

昔、日常使われていた道具が古くなって捨てられると魂を持って、「付喪神(つくもがみ)」とよばれる妖怪になりました。そして、さまざまな器物(道具)の妖怪たちが夜に行列をなして騒ぐ有り様が、中世から江戸時代にかけて登場した絵巻物には描かれています。ここに登場する妖怪たちは、捨てられた道具類を頭にかぶったり、綱などでひきずっているなど、実にユニークでユーモラスに描かれています。

今回の子どもミュージアムでは、器物(道具)の妖怪である「つくも神」の姿を借りてさまざまな昔の道具を子どもたちに紹介するとともに、なによりもものを大切にするという心を伝えたいと思います。

2.会期 平成30年7月21日(土)～8月26日(日) 32日間
入場無料 月曜休館

3.主催 水戸市立博物館

4.会場 水戸市立博物館 4F 展示会場

5.関連行事(予定) (いずれも無料)

(1) 会期中通しでできるワークショップ(4F 展示会場)

- ・妖怪をやっつけろ! (弓矢体験) (ゴム鉄砲体験)
- ・妖怪を作ろう
(笑うドクロ、ろくろっ首、提灯オバケ、踊るガイコツ君 他)
- ・「つくも神」と一緒に道具体験
(かき氷体験2種、足踏みオルガン、蚊帳、石臼、薬研、太鼓、他)

(2) 開催日を限って開催するもの(予定)

- ・つくも屋でこわーい話 怪談師 西野ひとみ
番町皿屋敷 他
- ・夏休みの宿題をやっつけろ! つくも絵画教室 「夏の思い出を描こう」
- ・妖怪さまを和太鼓で呼ぼう!
- ・妖怪マーブリング

他

【協議事項2】

明治維新 150 年プレ事業

特別展「みと歴史探訪—明治・大正期の水戸を行く—」

開催要項

1 概要

明治4(1871)年に廃藩置県が断行されたが、水戸は幕末期の動乱をひきずりながらの新たな県政のスタートとなった。

しかし新たな時代の胎動として、さまざまな文化の誕生をみた。日本画の改革を目指し近代日本画壇を牽引した画家・横山大観(1868-1958)が生まれ、また第19代横綱として活躍し後に「角聖」と呼ばれた常陸山谷右衛門(1874-1922)も、ほぼ同時期に誕生している。さらに明治22(1889)年には、文明開化の象徴とされる鉄道が走り始め(水戸-小山間)、水戸駅が開業した。そして同年4月、市制が施行され、水戸市が誕生した。

またこの頃の千波湖は、現在の約4倍もの大きさがあり、ジュンサイが採れ、エビ漁なども行われ、現在とは異なる風景を見せていた。

本展覧会では、当館の全部門の所蔵資料から、明治・大正期の水戸のさまざまな事象に関係する資料を展示することによって、この時代の水戸の様子を紹介する。

2 会期

平成30年10月20日(土)～11月25日(日) 32日間
月曜休館、11月23日(金・祝日)は開館

3 主催

水戸市立博物館

4 会場

水戸市立博物館(水戸市大町3-3-20) 4階・3階展示室

5 入場料

一般200円(20名以上の団体は150円)

高校生以下、65歳以上、障害者手帳・療育手帳所持者と付き添い1名は無料

その他各種割引あり

「ハッピーウィークエンド」実施…会期中の土日に高校生以下の子どもと来館した大人は、子ども1名につき大人1名が入場無料

6 展示資料(例・予定)

横山大観「浦風」・「水温む」

常陸山書

初代水戸駅の想定模型、2代水戸駅の想定模型、3代水戸駅の想定模型、水浜電車関係資料

千波湖の生き物の剥製、写真パネル等

7 関連行事

みと歴史講座 平成30年10月27日(土)・11月24日(土) 予定

